

アドバンスクリエイト（8798、ヘラクレス・スタンダード）

取材調査メモ

企業調査部 羽田野 友紀
TEL:03-3555-6961 FAX:03-3555-6965

2005.9期通期連結業績はほぼ会社計画並で着地するだろう

- ① 2005.9期第3四半期累計連結業績はほぼ会社計画並で着地した模様
- ② 株価レーティングは「1-A-HR」を継続する

2005.9期第3四半期累計連結業績はほぼ会社計画並で着地した模様

2005.9期第3四半期累計連結業績は売上高が前年同期比51.5%増の41.13億円、経常利益が同0.7%増の0.58億円と、ほぼ会社計画並みでの着地となったようだ。第3四半期のみ（2005年4～6月）で見ると、売上高が同50.9%増の18.35億円、経常利益が同41.2%増の3.46億円となる。上半期に広告宣伝費や店舗出店コストが負担となっていたが、第3四半期には先行投資の回収期に入り、保険契約申込件数が増加（第3四半期までの累計で、前年同期比55.2%増の9.65万件）し、四半期ベースでの増益を達成している。

2005.9期第3四半期累計単独業績 (単位：百万円)

	2005.9期Q3	2004.9期Q3	伸び率
営業収益	2,562	1,586	61.5%
うち、初年度手数料	2,035	1,080	88.4%
うち、次年度以降手数料	378	232	62.9%
経常利益	150	27	455.6%
純利益	64	0	-

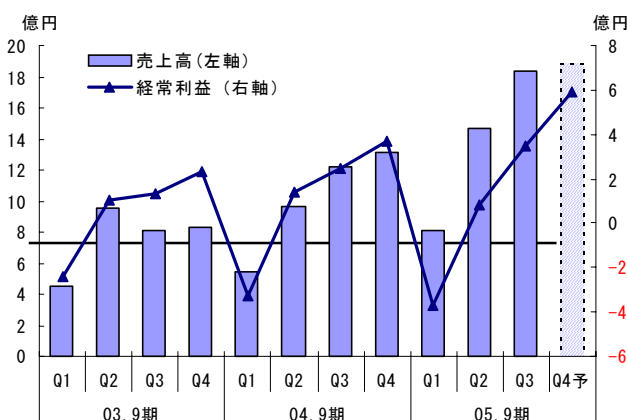
2005.9期第3四半期累計連結業績 (単位：百万円)

	2005.9期Q3	2004.9期Q3	伸び率
売上高	4,113	2,715	51.5%
経常利益	58	57	0.7%
純利益	4	19	-77.6%

(出所)決算短信、会社資料

なお、表面数値を見るとほぼ会社計画通りであるが、内訳は計画通りではないようだ。計画を下回っている要素としては保険契約件数の伸び悩みがあげられる。月次ベースで見ると2005年4～6月の保険契約申込件数は前年同月比2割台で推移しており、上期に比べるとやや伸び悩んだ感がある。これは主にWeb経由の申込件数が減少したためだが、Web経由は他のチャネルに比べると収益性は低いので業績に対するインパクトは比較的少ない。一方、1契約当りの当社の受取り手数料が増加しているようだ。これは、保険販売代理店としての当社の存在感が増しているため、保険会社からインセンティブ等を引き出しやすくなっていると推測される。

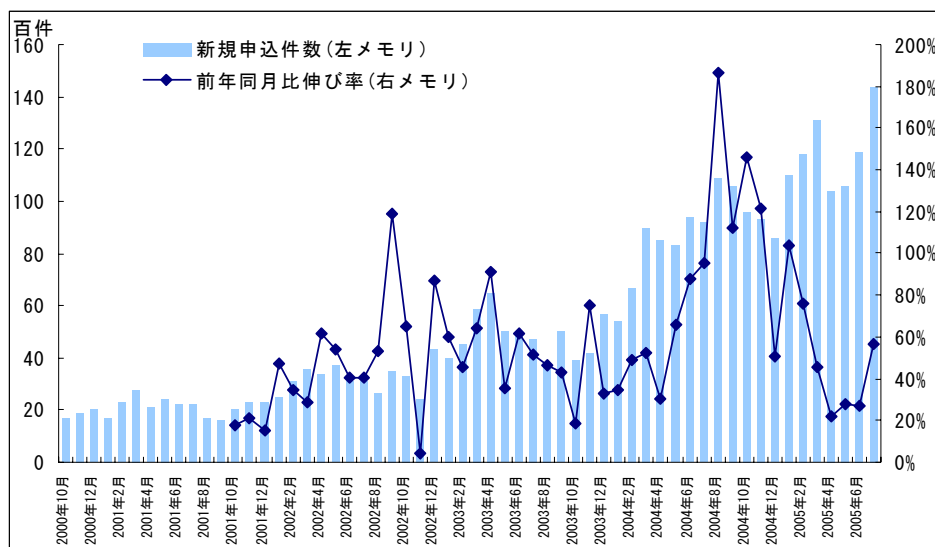
四半期ベース連結業績



(出所) 決算短信より、いちよし経済研究所作成
予想はいちよし経済研究所

この資料は、いちよし証券より対価を受け、公表されたデータ等に基づいて作成されたものですが、過去から将来にわたって、その正確性、完全性を保証するものではありません。投資の参考となる情報の提供を目的としたものですので、銘柄の選択、投資時期等の投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断をお願い致します。株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。投資によって発生する損益はすべて投資家の皆様へ帰属します。記載された見解等の内容はすべて作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。いちよし証券又はいちよし経済研究所及びいちよし証券の関係会社は、この資料に記載された銘柄の有価証券を保有又は売買する場合、及びこの資料に記載された企業に対し投資銀行業務を行う場合があります。この資料は、いちよし証券又はいちよし経済研究所及びいちよし証券の関係会社から、直接提供するという方法でのみ配布しております。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられており、告発の対象となります。(C)Ichiyoshi Research Institute Inc.and Ichiyoshi Securities Co.,Ltd. 20045 All Rights Reserved(売買管理部審査済2R0825G)

月次ベース新規申込件数



(出所) 会社資料

CA 店の出店により店舗の早期黒字化を目指す

「保険市場」店舗数は、2005年7月末時点で前期末比75店舗増の120店舗となっている。会社側の通期出店計画である120店舗には届かないと見られるが、2年目としてはまずまずのペースであったと評価できよう。出店が会社側の計画通りに進まないのは人材確保・育成に時間がかかるためと推測される。店舗成績は「立地」ではなく「人材」に寄るところが大きいため、会社側としても人材面での妥協はしない方針だ。

現在、元々保険代理店を経営していた方などを採用し、CA店（CAはコムラード エージェンシー＝志を同じくする同土集団の略）という形での出店も行っている。保険業界ではFC制度が認められていないので、当社が雇用する形を採っているが、成功報酬に力点を置いた給与形態となっている。このため、直営店に比べると損益分岐点が低く、出店から黒字化するまでの期間を短縮できると見られる。また、経験者の採用により人材育成期間の短縮化を図ることもできるだろう。

2005.9期連結業績は会社計画並で着地すると見る

2005.9期通期連結業績は、第3四半期までの業績がほぼ会社計画並の進捗となっていること、月次の保険申込件数の伸び率が持ち直していることなどから、会社計画並での着地になるだろう。よって、いちよし経済研究所では、2005.9期連結業績見通しは、売上高前期比48.9%増の60億円、経常利益同53.7%増の6.5億円を予想している。

中長期的には、保険販売チャネルを拡充し、保険流通マーケットにおけるシェア向上させることにより、高い利益成長が期待できるとの見方に変更はない。株価レーティングは「1-A-HR」を継続する。

私、羽田野友紀は本レポートに記載された見解が私個人の見解を正確に反映していることを表明します。また、このレポートの執筆にあたり、第三者からの強要・示唆・依頼等、いかなる圧力も受けておりません。私は本レポートを執筆することにより特別の報酬を得ることはありません。また、私及び私の家族は本レポートの対象企業の有価証券を保有しておりません。

この資料は、いちよし証券より対価を受け、公表されたデータ等に基づいて作成されたものですが、過去から将来にわたって、その正確性、完全性を保証するものではありません。投資の参考となる情報の提供を目的としたものですので、銘柄の選択、投資時期等の投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断をお願い致します。株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。投資によって発生する損益はすべて投資家の皆様へ帰属します。記載された見解等の内容はすべて作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。いちよし証券又はいちよし経済研究所及びいちよし証券の関係会社は、この資料に記載された銘柄の有価証券を保有又は売買する場合、及びこの資料に記載された企業に対し投資銀行業務を行う場合があります。この資料は、いちよし証券又はいちよし経済研究所及びいちよし証券の関係会社から、直接提供するという方法でのみ配布しております。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられており、告発の対象となります。(C)Ichiyoshi Research Institute Inc. and Ichiyoshi Securities Co., Ltd. 20045 All Rights Reserved(売買管理部署査済200825G)